

課題番号 49

80歳以上の非小細胞肺癌に対するリンパ節郭清が予後に与える影響を検証する多施設共同後ろ向き観察研究

[1] 組織

代表者：塩野 知志

(山形大学医学部外科学第二講座)

対応者：野津田 泰嗣

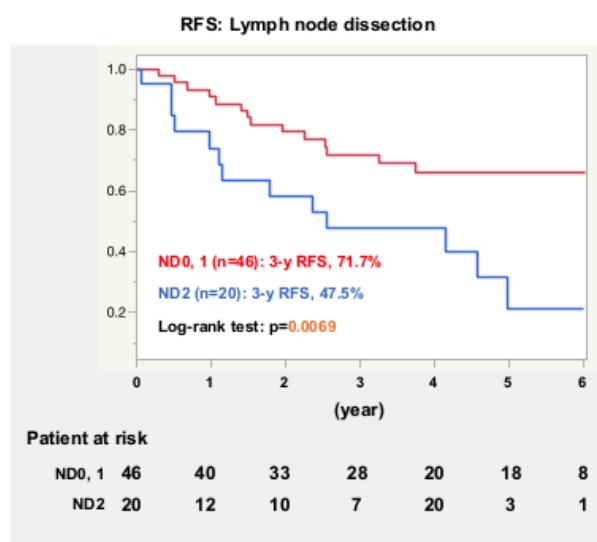
(東北大学加齢医学研究所)

研究費：物件費 114,580 円，旅費 15,420 円

[2] 研究経過

非小細胞肺癌に対する標準術式は肺葉切除術および肺門縦隔リンパ節郭清（系統的リンパ節郭清：ND2a-2）であるが、80歳以上の患者に対してリンパ節郭清が（特に予後に与える）意義のあるものなのかわかっていない。

生存期間解析 (RFS)



本研究では、東北呼吸器外科臨床研究グループ (JNETS) の統括施設として、胸部悪性疾患におけるデータベースを使用した多施設共同後ろ向き観察研究を立ち上げ、このデータベースを使用して、80歳以上の非小細胞肺癌患者に対してリンパ節郭清省略が予後に与える影響を明らかにし、共変量の内、術後に特に変化の大きい因子を明らかにして、手術の低侵襲性について検討することである。

これまで研究打ち合わせ（ミーティング）を約3ヵ月に1回程度の割合で開催した。ミーティングのメンバーは研究者・分担者のほか、呼吸器外科医師のコアメンバー計6名で行い、研究の進捗状況の確認および実施計画について話し合われた。

[3] 成果

(3-1) 研究成果

本年度は、以下に示す研究成果を得た。

まず第1に、東北呼吸器外科臨床研究グループ

(JNETS) より、期限を決めて、下記のデータ収集を行った。

- ・術前調査項目：年齢、性別、体重、身長、喫煙歴、生活歴、内服薬、術前合併症、気管支鏡検査情報、術前肺機能、術前画像所見、術前血液検査値、臨床病期データ、術前栄養評価、術前治療の有無と内容、効果、初診日、検査日、入院日、手術日、退院日などの日付。

- ・手術調査項目：術式、手術時間、麻酔時間、手術中の投与薬剤、麻酔中の人工呼吸器の設定、出血量、輸血量、輸液量、体外循環の有無と種類、術中迅速診断の有無とその結果

- ・周術期調査項目：周術期身体所見、周術期画像所見、周術期血液検査値、術後内服薬、術後注射薬、疼痛管理の評価、集中治療室滞在日数、入院期間、周術期合併症、周術期栄養評価

- ・術後調査項目：術後身体所見、術後画像所見、術後血液検査値、慢性期合併症、術後病理病期データ（遺伝子変異検索、免疫チェックポイント分子発現検索のための免疫組織染色データを含む）、再発の有無と再発形式、術後治療の有無と内容、無再発生存期間、全生存期間、術後栄養評価

差は認められなかった。
JNETS 研究分担施設は16施設となり、延べ10300例の症例集積を完了した。

(3-2) 波及効果と発展性など

上記のデータ集積には依然として欠損値も多く、クエリの作成とデータのクリーニングが必須な状況ではあるものの、得られた情報量は膨大であり、本研究

テーマだけでなく、数多くの後ろ向き観察研究計画が現在立ち上がっている過程にある。10000 例を超える症例の中で、80 歳以上は約 20%を占めており、2000 例近い症例による大規模後ろ向き観察研究の結果を報告できる可能性があり、高齢者肺癌に対する治療に関して、リアルワールドデータの解析結果を提供し、実臨床に外挿されることが期待される。

〔4〕 成果資料

今年度中に本共同研究で研究された学会発表、論文発表等はない。